

■ご挨拶

オリンピックまであと4年

日本風力発電協会 理事 **秋吉 清一郎**
グリーンパワー株式会社 代表取締役



はじめに

平成 27 年度に引き続き、今年度も理事を務めさせて頂くこととなりましたグリーンパワー(株)の秋吉です。2000 年の任意団体日本風力発電協会発足以来、16 年目に突入しましたが、今年も初心に帰って務めさせて頂きますので、何卒よろしくお願い致します。

今、どういう状況なのだろう？

風力発電を取り巻く環境がとにかかく慌ただしい。昨年から広域連携機関が動き始め、今年の5月25日に電気事業法が改定され、久々に「しぬかもしれない」と感じるほどの忙しさなど何年ぶりだろうか？と実感しています。何の業界でも恐らく似たようなものなのでしょうが、世間で忙しそうだと思われている時期と当事者が本当に忙しい時期との間には時間差があります。

2012年のFIT開始以来、追い風を期待したプロジェクトも多かったでしょうし、東日本大震災で不自由で不安な暮らしを経験した地域からは大きな期待をかけられたように記憶しています。しかし、その3か月後に実施されたアセス法の改定に伴い7,500kW（ルール上は10,000kW）以上の大型プロジェクトが環境アセスメントの対象となりすぐに導入とはなりません。その間、太陽光発電の導入が大きく進み、長い環境アセスメントが終わりようやく申し込んだころには無理ですと言われてしまう地域も散見されるようです。

こうやって書いてみるとロクな状況ではないような気がしてくるのですが、実は最近、風力発電事業には新規参入が相次ぎ、ここ数年名前が聞こえなくなって久しかったかつての雄が再び参入を目指して再始動しているという話も届きます。おそらく、これが電力完全自由化と発送電分離のインパクトなのでしょう。

我々自身、風力発電という新しいビジネスを新しいルールでやっているつもりでしたが、その新しかったはずのルールですらすらと新しくないのかもしれないと考えねばならないのかもしれない。

とりあえず次の4年間

昨年のご挨拶でも似たようなことを書いたような気がしますが、立ち止まることが出来ないような日々の連続はまだまだ続くように思います。そのような状況を認識したうえで、昨年、日本風力発電協会としてウインドビジョンを提示しました。そして、これを推進する事が会員の皆様の期待に応えるためにやるべきことなのだと思います。

何をどうしよう、これをどうしようといった話は国会なり行政機関なりに委ねざるを得ませんが、風力発電協会はこの産業の当事者として日々の仕事に役立つ情報を、発信し、公開し、提言し、意見しといった活動を通じて、4年後この国を訪れる人達に今とは違う何かを見せることができれば、おそらくそれが風力発電業界がこの国に必要とされる産業へと歩を進めた証となるのではないかと考えています。

4年後、2000年までに設置された風車は撤去されているのか、メンテナンスを加えられながら更に働き続けているのか、新しく建替えられて次の20年を目指しているのか、結果は間違いなく2020までに出ている事でしょう。電力が人の生活に不可欠なエネルギーである以上、こちら側の都合でちょっと待って！はありません。間違いなくこの4年間で何かが変わっているはずですが、もちろん大きく変わるのか少しだけ変わるのかは現時点ではわかりませんが、変わらないということは決してないと思います。そしてどちらの方向にどの程度変わるのかは我々のかかわり方次第という状況のようにも思います。

そして4年後、世界からこの国にどのような視線が注がれて、我々が彼らに何を応えられるのかをイメージすると、まだまだできることがあるように思います。

おわりに

今後とも日本風力発電協会の理事として、今年はまだまだやらねばならないことが山積していることを確認してみました。加えて微力ながら新しい仲間を迎える一助となることを願ってやみません。